

 B. 各支部から

## 愛知県小児保健協会について

愛知県小児保健協会支部長  
あいち小児保健医療総合センター  
長 嶋 正 實

愛知県小児保健協会は昭和32年5月に発足し、種々の活動をしてきた。平成14年から事務局をあいち小児保健医療総合センター(センターと略す)内に置くこととし、筆者が会長に就任し、現在に至っている。

センターは開設の理念から小児保健を重要な柱として位置づけ、センター内に保健部門を置き、愛知県内小児保健の中核的拠点として日本でもまれに見る充実した小児保健活動を実施している。

事務局移転に伴い、執行部も一新し、小児保健に関係する幅広い職種や部門(県医師会、県歯科医師会、県小児科医会、名古屋市小児科医会、県学校保健会、県薬剤師会、県保健師会、市町村保健師協議会、県看護協会、県養護教育研究会、県栄養士会、県歯科衛生士会、県保育士会、県教育委員会、県健康福祉部、名古屋市教育委員会、名古屋市子ども青少年局など)の代表が理事として参画し、愛知県小児保健協会を運営する形となった。

平成14年度から持ち回りで各職種から開催担当理事を選び、年1回の研修会を開催している。特別講演や研究発表(毎年8~9題)が活発に行われ、内容も徐々に充実してきた。また新たに「小児保健あいち」を毎年発行し、研究発表だけでなく、各職種の年間活動報告なども掲載し、横の連携を密にしている。さらに内容を充実させたいと考えているが予算が十分とはいえず、今後の努力が必要である。

私は平成14年度に発行された「小児保健あいち」第1号のはじめに以下のようなことを書き、愛知県小児保健協会の方針を述べたのでその一端をここに  
愛知県小児保健協会  
〒474-8710 愛知県大府市森岡町尾坂田1-2  
あいち小児保健医療総合センター内

引用する。

「我が国は昭和20年に第二次世界大戦で焼け野原になりました。当時の日本の乳児死亡率は80以上(平成12年3.4)と高く、現在のアジア、アフリカの発展途上国並みでした。しかし、我が国が一丸となって努力し、戦後、すべてを失った日本を復興・発展に向けて頑張ってきました。その成果として、社会のインフラは急速に整備され、小児医療・母子保健の面でも大きな進歩をとげました。疾病を治療する医療の進歩はさることながら、疾病予防のための教育、検診、follow-upのシステム作りや実施に大きく関与してきた保健の役割が光り輝いています。医師、看護師はじめ、行政、保健所、保健センター、学校などが大きな役割を果たしてきたように思います。このように身体的疾病に関しては解決されてきましたが、新たに別の問題が心配されています。心の問題です。虐待、いじめ、非行、種々の心身症などが急激に増加し、かつ複雑化してきました。この問題の解決はなかなか難しいようですが、どうやら治療より予防が大切であることだけは分かってきました。その意味でも保健が大きな力を発揮しなければなりません。短時間では困難かもしれませんが、今まで種々の疾病を克服してきたように多くの人々の力で少しずつ解決されていくことを信じています」

その後8年が経過したが、基本的にはこの方針は全く変わっていない。日本が現在直面している小児保健に関する問題には心の問題、発達障害、虐待などがあり、医療だけでは解決できない問題が山積している。これらの問題を解決するためには医師、看護師だけでは不十分であり、小児保健にかかわる幅広い職種や専門家が手を携えて行動を起こさない限

り解決が難しいと思われる。その視点からは今後の小児保健協会の活動はきわめて重要と考えており、さらなる発展が期待されているが、特に、地域の小児保健の重要性を強調したい。

なお、平成15年と21年に愛知県小児科医会が推薦

した2団体「愛知県病弱療育研究会」、「子どもをタバコから守る会・愛知」がそれぞれ日本小児保健協会から実践活動助成金をいただいております。県内での関係諸団体も活発に活動していることがうかがえる。